

# 米子市 文化活動館 通信



県名の由来につながると  
いう白鳥



空を舞う白鳥

## 試練乗り越え 希望の年へ



館長 中村輝彦

平成22年末から翌年正月に襲来した先の山陰豪雪から10年を経る今年、赤道付近の海面水温が低くなるラニーニャ現象の影響で厳しい冬の再来が懸念されています。加えて、今年は長引くコロナ禍の中で、慣れ親しんだ年明けとは異なって、様々な試練に立ち向かう年となりそうです。

米子市の発展には、光が差し込んでいます。昨年に通した弓ヶ浜サイクリングロードや米子駅の南北一体

化事業、懸案だった安倍三柳線バイパス事業の進捗、米子城跡の公園化に着手など豊かな将来を構築する事業が着々と進んでいるようです。

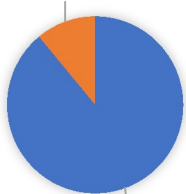
文化活動館も、設置目的である「米子市の文化活動の促進と観光の振興」を担い、少しでも市の発展に寄与できる施設として貢献してまいりたいと考えています。具体的には従来の事業に加え、国の伝統的工芸品に指定され、当地の誇りでもあります弓浜絃を中心とした新しい事業に挑戦してまいります。

最後に、今年が新型コロナなどの試練を乗り越え、希望に満ちた年とならんことを切に願うものです。

## 令和2年度 利用者アンケートの集計結果

利用者の皆様に、スタッフの対応などのアンケートを行い、126人の方にご協力をいただきました。

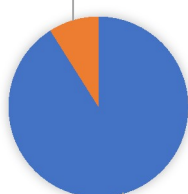
どちらかという  
良かった 11%



良かった  
89%

問合せの電話対応

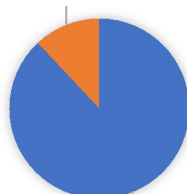
どちらかという  
良かった 9%



良かった  
91%

利用時の受付対応

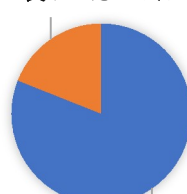
どちらかという  
良かった 12%



良かった  
88%

要望への対応

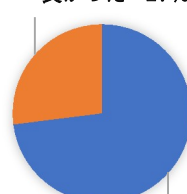
どちらかという  
良かった 19%



良かった  
81%

コロナ対策

どちらかという  
良かった 27%



良かった  
73%

部屋利用の感想



## 四季折々

**県名の由来** 古代に鳥を捕獲する特殊技能を持つ民を朝廷が組織した品部(しなべ)に「鳥取部(ととりべ)」があった。その起こりと白鳥が深く関係し、鳥取県の県名につながるという説がある。近年、山陰地方で越冬する白鳥は約2000羽で、島根県安来市の能義平野が中心。奈良時代の『出雲国風土記』に、白鳥の古名「鵠(くぐい)」の記述があり、当時から山陰が越冬地となっていた。その上で、奈良期の歴史書『日本書紀』を紐解くと、空を飛ぶ白鳥を見て言葉を発した誉津別皇子(ほむつわけのみこと)に喜んだ垂仁天皇は、鳥取造(ととりのみやつこ)の祖先に献上を命じ、出雲国(一説では但馬国)で捕らえた。天皇は、捕獲者に鳥取造の姓を与え、白鳥などを捕らえる職能組織の鳥取部などを定めた、としている。一方、現在の鳥取平野には、古くから湿地帯で水鳥を捕獲する狩猟民がいて、やがて鳥取部の下に組み込まれ、地名の鳥取が生まれ、県名になったらしい。また、奈良期を中心に山陰には、鳥取部を名乗る民が多かったという。古代の中海や宍道湖は、現在と違う姿であったが、湖畔は今も昔も白鳥などが群れ遊ぶ水鳥の楽園だった。(山)

# 学べる講座 アラカルト

手軽にできるお菓子作り教室、韓国料理教室、弓浜緋体験教室①を10-11月に開催しました。また、7月から順次、開催した全12回のいざという時の着物着付教室、初めての中国語教室、ベーシックヨガ教室、社会で役立つ毛筆習字教室は、好評のうちに閉講しました。



韓国料理教室



弓浜緋体験教室①



手軽にできるお菓子作り教室

## 弓浜緋体験教室②

- ◆1/18(月)13:30~15:30 ◆講師 弓浜緋保存会
- ◆内容 糸紡ぎ、機織りなどの工程を学び、コースター作製 ◆定員12人(先着順) 受講料1000円
- 募集開始 1/4(月)

## ロシア料理教室

- ◆2/26(金)10:00~14:00
- ◆講師 パルフェーベツ・オリガ先生
- ◆定員12人(先着順) ◆受講料500円(材料費別)
- 募集開始 2/1(月)

利用者の皆様  
マスク着用をお願いします

## 秋の除草作業を実施 参加18人が汗流す



- ◆米子市文化活動館周辺の環境整備で10月、秋の除草作業を行い、職員と利用団体の有志の皆さん計18人が汗を流しました。
- ◆活動館は9月、芝刈り機1台を導入しました。草地の駐車場での効率的な除草作業が可能となりました。

- 休館日** ◆1月=年末年始の令和2年12月29日(火)~3年1月3日(日)、11日(月)と毎週水曜日  
◆2月=毎週水曜日と11日(木)、23日(火) ◆3月=毎週水曜日と20日(土)

**利用時間** 開館日の利用は平日と土曜日が9:00~22:00(日曜日は17:00まで)。部屋貸し出しは閉館の15分前まで。

## あとがき



コウノトリ=米子市

昨秋の米子市は、コウノトリのオンパレードだった。私が9-12月の24日間で観察したコウノトリは、米子を中心に20個体の計75羽にのぼった。驚くべき数字だ。農耕地やため池に降り立ち、餌のバツタ類や魚を探している姿を目撃した。『四季折々』の「県名の由来」でも触れたが、中海沿岸は古来、多彩な鳥類が生息。米子市が35年前に発掘調査した縄文から弥生時代の複合遺跡「目久美遺跡」では、縄文前期(約6000-5000年前)の地層からコウノトリやタンチョウヅルなどの骨が出土し、生息が裏付けられている。だが、日本のコウノトリは昭和46年に絶滅。その後、コウノトリの復活を目指す活動の結果、現在では約230羽が日本の空を舞っている。昨秋はそれらの一部が自然豊かな米子に飛来し、縄文や弥生人が見たであろう光景が出現した。(山)

お申し込み・お問い合わせは 米子市文化活動館 ☎0859(34)5154

〒683-0802 鳥取県米子市東福原8丁目24-31 FAX=0859(30)4788

米子市文化活動館 指定管理者 旭ビル管理株式会社 <http://asahibiru.com./ybk/>